



きせき

秋草学園高等学校 卓球部通信
平成30年2月22日
第325号



説得力ある後藤さんの話②

★人より沢山練習しようと思って、ボール拾いを走って拾ったりした。部内でゆっくり拾っている人を見ると、一層行動を早くした。また、先輩や同級生関係なく他の人が練習していない間に、何本も練習しようとした★練習が終わったあとも卓球のことを考えて、明日の練習課題を考えていた★古川先生は熱心に教えてくれるし、他の先生とは違う。県や関東で1番の先生だと思っている。古川先生だったから練習を頑張ることができた。★秋草で辛い経験ができたのが今後の自信になる。★テスト期間行き帰りのバスや電車で勉強したり、朝練の時間から学校にきて勉強したり、土日も10時間以上勉強した。★レギュラーから落ちそうになって、ラ



バーを表ソフトに変えた時やめたいと思った。その時、先生にはずいぶん支えて頂いた。★練習を一生懸命やっていたら、引退した後辛いことより楽しいことの方が多かったと思える。★試合中に大きな声を出すようにしたのは、相手に大きな声を出されたいやだから★インターハイ出場も嬉しいけど、みんなと一緒に戦えたことが一番嬉しい。★団体でも個人戦でも応援しないと自分も応援してもらえないような気がして、必死で応援した。

28年度インターハイ予選決勝で

後藤先輩の話を聞いて



後藤先輩のお話は素晴らしかったです。先生に教えてもらいたいと思ったことは有りますが、好かれないと思ったことはなかったです。中学では勉強が出来なかったなんて信じられません。高校で卓球を一生懸命やるようになって他の事も一生懸命できるのはすごいと思いました。試合でライバル視はしますが、練習中やボール拾いの時もこの人は歩いているから、その人よりも早くボールを拾って、強くなってやると思っていたとは知らなかったで、自分は後藤先輩とどの位差をつけられていただろうと焦りました。卓球を学び、考え、時には卓球ノートに次の日の課題を毎日書いて、昼寝はしないで練習など私には考えられないくらいすごい卓球を考えていて、こんな先輩にはなれないかもしれないけど、それくらいに近づけるようになりたいと思いました。こんなに努力を積み重ねてきたからこそインターハイに行けたんじゃないかと思いました。私もこんな必死で努力のかたまりのような後藤先輩とダブルスを一緒に組んで最高に幸せでした。後藤先輩のいうことにはすごく説得力あるので、練習にもやる気が出るし、頑張ろうって思えます。後藤先輩の存在はとても大きかったです。自分は毎日後藤先輩がいると思って練習に励みたいと思います。